

平成25年度事務事業評価シート		該当事業(評価対象外事業は基本情報のみ記載)		
		一般事務	公共建設事業	評価対象外事業
事務事業名	図書館・文化ホール等建設事業			
予算科目	10 款 5 項 6 目			
総合計画での位置付け	教育・文化・スポレクの振興～うるおいと生きがいのひとづくり～ 生涯学習の推進・文化の振興			
所管課情報	担当課: 庁舎建設課		電話番号(内線): 582	
記入者情報	所属長: 武智 年哉		担当責任者: 三谷 陽紀	
実施期間	【開始年度】平成 25 年度 【開始年度】平成30年度			
事業の対象	市民			
事業の必要性	生涯学習や創造・文化芸術活動を通じて未来を担う子どもたちやそれを支える人たちが育つだけでなく、「ひと・まち・ぶんか」が出会い、つながっていく仕組みを創るため。			
施工方法、場所	【施工方法】 請負		【施工場所】 伊予市米湊	
運営方法	【運営方法】 直営・指定管理		【運営費(予定)】	
事業の目的	老朽化・狭隘化・バリアフリー等に問題のある図書館・文化ホール・公民館を複合施設として整備することで、多様な目的で訪れる幅広い利用者の要望に合った活動空間が提供でき、新たな出会い・発見・交流の機会を創設する。			
事業の内容	図書館・文化ホール・公民館 鉄筋コンクリート造3階建て 述べ床面積:5,500㎡駐車場 鉄骨造平屋建て(2層屋上駐車場) 延べ床面積:1,140㎡※基本設計時点に変更			
改善策の 具体的 取り組み (当初)				
改善策の 具体的 取り組み				

事業費及び財源内訳								
項目	24年度決算	25年度予算	9月末の執行状況	25年度決算				
事業費	直接事業費	0	664	0	377			
	人件費	0	4,067	0	3,254			
	合計	0	4,731	0	3,631			
人件費 内訳	人工数	0.00	0.50	0.00	0.40			
	人件費単価	0	8,135	0	8,135			
	補助事業人件費	0	0	0	0			
	人件費	0	4,067	0	3,254			
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0			
	県支出金	0	0	0	0			
	地方債	0	0	0	0			
	その他	0	0	0	0			
	一般財源	0	4,731	0	3,631			
実施スケジュール								
項目	24年度以前	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度以降	
地質調査			14,116					
基本・実施設計			32,770	69,745				
工事監理				2,500	15,000	12,500	10,000	
既存施設解体				45,000			40,000	
施設建設				14,500	1,340,000	960,000	70,000	
年度別事業費		376	47,962	251,316	1,485,343	1,165,741	126,241	
財 源	国・県支出金							
	地方債			13,400	206,300	1,410,700	923,800	114,000
	その他			32,000	30,000		180,000	
	一般財源		376	2,562	15,016	74,643	61,941	12,241
国・県支出金等名称	過疎債・建設計画推進基金							

成果指標				
成果指標	事業進捗率(事業費)			
指標設定の考え方	実施スケジュールに基づき工程管理を行い、目標年度での施設完成を目指す。			
区分年度	24年度	25年度	26年度	目標30年度
目標	0	-	-	100
実績	-	-	-	-

自己評価				
自己評価 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	4	B
		市民ニーズへの対応	4	
		市の関与の妥当性	4	
	有効性	事業の効果	4	B
		成果向上の可能性	4	
		施策への貢献度	4	
	効率性	手段の最適性	4	B
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	4	
課題認識	建設地について再検証のため、タウンミーティング、市民アンケートを実施した。結果、9月に現計画地での実施が確定した。12月からプロポーザル方式による設計業者選定を開始し、翌年3月に設計委託業者が決定した。次年度より基本設計を進めていくこととなるが、建設市民ワークショップを開催し、市民の皆様から出された提案等について、可能な限り設計に取り入れ、より良い施設となるよう進めていく必要がある。			

一次評価				
一次評価 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	4	B
		市民ニーズへの対応	4	
		市の関与の妥当性	4	
	有効性	事業の効果	4	B
		成果向上の可能性	4	
		施策への貢献度	4	
	効率性	手段の最適性	4	B
		コスト効率	4	
		受益者負担の適正	4	
課題認識	図書館・文化ホール・公民館の機能を複合化することにより、本市の新たな魅力とイメージを形成し、中心市街地のまちづくりを先導するとともに、子供から高齢者まで幅広い市民を対象にサービスを提供し、より多くの人々が参画・協働できる環境作りが必要である。また、愛され大切に長く使ってもらえる施設とするために、平成26年度は基本設計に並行しながら市民ワークショップを開催し、示唆に富む貴重な意見を収集し予算の範囲内で、建設に反映させる必要がある。			

二次評価	
二次評価 (所属部長)	以下の点について外部評価が必要と判断し、行政評価委員会に諮る。
意見、課題	市の重要施策であり市民の関心も高く、広く情報を開示し、より多くの意見を聴く必要があることから、外部評価に諮ることとする。

行政評価委員会の答申

<p>外部評価 (行政評価委員会)</p>	<p>・駐車スペースは確保できるのだろうか。・小・中学生を集めて参加しているワークショップは非常に先進的だと思う。・ハードの部分にソフト面がやっと追いついてきたところであり、今後は所管課の連携や調整をしっかりと進めないといけない。・実施計画や管理運営計画、プレオープンやオープン事業など考えるためにも準備室を設けていただきたい。・建設中の公民館の代替施設についてはきちっと検討し、示していただきたい。・歴史資料室の問題が残っている。社協跡の取扱いも含め、そういう問題があるという認識をしていただきたい。・芸能や発表をする際の意見を聞いて、モノができて評価できる建物にならないということがないように進めてほしい。・大変重要な歴史遺産を持つ伊予市であるので、歴史資料館は最低限の設備は用意していただきたい。・複合施設の売りを表現する何かがあった方が浸透しやすいのではないか。もう少し伝わりやすくするのが得策である。</p>
---------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

経営者会議の最終判断

<p>事業の方向性</p>	<p>さらに重点化する。</p>
<p>意見、課題</p>	<p>市民ワークショップ、管理運営計画検討委員会、補助金交付申請の課題など、連携を密にして進捗を図っていくこと。</p>